

2011.4.15

2011 年度 日本海洋学会通常総会報告事項

報告事項

- ① 編集:JO 編集委員会 (資料1)
- ② 編集:海の研究編集委員会 (資料2)
- ③ 研究発表 (資料3)
- ④ 賞選考:学会賞・岡田賞・宇田賞
- ⑤ 賞選考:日高論文賞 奨励論文賞
- ⑥ 賞選考:環境科学賞
- ⑦ 選挙管理 (資料4)
- ⑧ 海洋環境問題委員会 (資料5)
- ⑨ 沿岸海洋研究会 (資料6)
- ⑩ 西南支部 (資料7)
- ⑪ 教育問題研究会 (資料8)

④・⑤・⑥は「海の研究」第 20 巻 2 号(JOS news)をご覧ください。

JO 編集委員会 報告事項

【1】 JO誌編集委員長の交代

現編集委員長が3月31日に退任、新編集委員長が4月1日付で就任する。

【2】 JO誌編集委員の交代について

- (1) 現編集委員の一部が3月31日付で退任し、交代の編集委員が4月1日付で就任する。
- (2) 現国外編集委員が3月31日付で退任する。後任は新編集委員長が指名する。
- (3) 担当編集分野を改訂して新たな編集委員が4月1日付で就任する。

具体的な担当編集分野と、新編集委員氏名、所属、現 - 新編集委員の対応一覧を下記に記す。

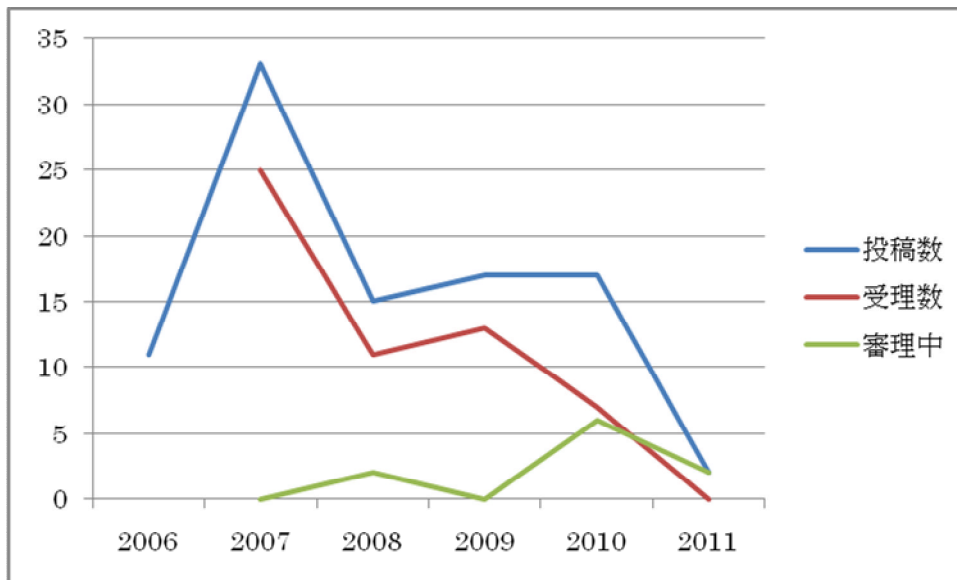
- 1) Physical Oceanography; Coastal and Marginal Seas, Modeling Guo, Xinyu (愛媛大) 継続
- 2) Physical Oceanography; Coastal and Marginal Seas, Dynamics Nakamura, Hirohiko (鹿児島大) 継続
- 3) Physical Oceanography; Coastal and Marginal Seas, Observation Morimoto, Akihiko(名古屋大) 千手後任
- 4) Physical Oceanography; Polar Oceans Shimada, Koji(東京海洋大)三寺後任
- 5) Physical Oceanography; Tropical Oceans, Modeling Tohzuka, Tomoki(東京大) 升本後任
- 6) Physical Oceanography; Midlatitude Oceans Suga, Toshio(東北大) 安田後任
- 7) Physical Oceanography; Turbulence and Mixing Hibiya, Toshiyuki(東京大) 新任
- 8) Physical Oceanography; Remote Sensing Konda, Masanori(京都大) 市川後任 (分離)
- 9) Physical Oceanography, Surface Waves, Experiments Waseda Takuji(東京大) 市川後任 (分離)
- 10) Marine Chemistry; Sohrin, Yoshiki(京都大) 継続
- 11) Chemical Oceanography; 未定
- 12) Marine Biology; Bacteria & Archea Kogure, Kazuhiro(東京大) 継続
- 13) Marine Biology; Plankton & Nekton Saito, Hiroaki(東北水研) 津田後任
- 14) Marine Biology; Benthos Kojima, Shigeaki(東京大) 津田後任、新設
- 15) Biological Oceanography; (Biogeochemical Cycles) Saino, Toshiro(JAMSTEC) 退任
- 16) Biological Oceanography; satellites, bio-phys interaction Ishizaka, Joji(名古屋大) 継続
- 17) Biogeochemical Oceanography; Kanda, Jota (東京海洋大) 継続
- 18) Biogeochemical Cycles; Modeling Kawamiya, Michio(JAMSTEC) 継続
- 19) Paleoceanography, Geological Oceanography Yamamoto, Masanobu(北海道大) 原田後任

【3】 4年間のまとめ

2007年4月1日から2011年3月31日までに受けつけた論文は456編(特別セクションの分は除く)で受理した論文が215編、却下した論文が179編で、62編の論文が審査中。これらの論文はEMに載せることが出来ないので、旧編集委員長および、旧編集委員が審査・編集終了まで対応する。

海の研究編集委員会 資料

- 投稿数は2007年に半田、田上委員長が頑張って増やしたが、2008年以降、岸は何も手を打っていないので、平均年間15編程度である。
- 電子化に伴って、受理された論文は、即、掲載としてので、巻によってボリュームにでこぼこがある。19巻3号と20巻2号には論文は掲載されていない。
- 20巻3号以降は論文(寄稿、総説を含む)のみの掲載なので、掲載論文がないときは合併号となる。
- ↓論文の推移である。(総説、寄稿、学会賞受賞論文を含む)



- 2011年4月より編集委員長は久保田雅久会員。
- 岸前編集委員長は編集委員として残る予定。
- ニュースレターの発行に伴い、投稿規定の変更が必要。秋までの宿題。

報告

2010年度大会

●春季大会

会期 2010年3月26日(金)～3月30日(火)

会場 東京海洋大学 品川キャンパス

担当 東京海洋大学の会員

参加者 587名

研究発表 254件 (ポスター 51件を含む)

シンポジウム 10件

●秋季大会

会期 2010年9月6日(月)～10日(金)

会場 東京農業大学生物産業学部 (オホーツクキャンパス)

担当 道東地区の会員

参加者 369名

研究発表 213件 (ポスター 42件を含む)

シンポジウム 4件

2011年度大会

●春季大会

会期 2010年3月22日(火)～26日(土)

会場 東京大学大気海洋研究所 (東大柏キャンパス)

担当 東京大学大気海洋研究所の会員

大会委員長：西田 睦

副委員長：西田周平、木暮一啓

事務局長：津田 敦

●秋季大会(予定)

会期 2011年9月26日(月)～9月30日(金)

会場 九州大学 筑紫キャンパス(春日市)

担当 福岡地区の会員

大会委員長：柳 哲雄

副委員長：山田真知子

事務局長：松野 健

2012年度大会

●春季大会(予定)

会期 2012年3月26日(月)～30日(金)

会場 筑波大学第二エリア (つくば市)

担当 つくば地区の会員

大会委員長：気象研究所長

事務局長：蒲地政文

2011 年秋季大会 報告事項

秋季大会の開催時における韓国海洋学会の同時開催について

1. 日本海洋学会秋季大会開催と並行して、同じ九大筑紫キャンパスで韓国海洋学会の海洋物理部会が開催される。研究交流促進のため、以下のことを考える。

- ・それぞれの口頭発表は原則としてそれぞれ母国語で行われるが、韓国（日本）海洋学会に参加登録をすれば、日本（韓国）海洋学会の大会にも参加できる。

- ・ポスター発表は同じ会場を予定する。それぞれの学会のブースを設ける。

- ・懇親会は合同で行う。

- ・休憩室は複数設置を予定しているが、両学会で共通とする。

2. 韓国海洋学会との共催シンポを予定している。

2011 年度秋季大会実行委員長 柳 哲雄

2011 年度、2012 年度役員選挙投票結果報告

日本海洋学会会則及び選挙細則の定めるところにより、2011 年度、2012 年度役員（会長 1 名、副会長 1 名、監査 2 名、評議員 56 名）の選挙を行い、下記の会員が選出されました。

選挙公示・投票用紙発送:2010 年 11 月 12 日

投票締め切り:2010 年 12 月 1 日

開票:2010 年 12 月 3 日

開票作業者:中野俊也、浜崎恒二、西川 淳、多田雄哉、古谷浩志、大久保綾子、
村上 潔、石崎士郎

投票総数:302 票(有効投票数 302)

開票結果

1) 会長

1 花輪 公雄	283
次点 山形 俊男	4
今脇 資郎	1
岸 道郎	1
才野 敏郎	1
谷口 旭	1
日比谷 紀之	1
柳 哲雄	1

2) 副会長(得票数 1 票の方は省略)

1 津田 敦	265
次点 岸 道郎	3
古谷 研	3
上 真一	2

3) 監査(5 位以下省略)

1 寺崎 誠	37
2 今脇 資郎	33
次点 小池 勲夫	25
谷口 旭	15

4) 評議員(次点者で得票同数の場合、順位は抽選による)

北海道・東北地区(定員9名)

1 須賀 利雄	78	次点 1 齊藤 宏明	41
2 岸 道郎	77	2 谷口 旭	38
3 江淵 直人	69	3 門谷 茂	35
4 大島 慶一郎	68	4 磯田 豊	33
5 川村 宏	60	5 久保川 厚	33
6 伊藤 進一	49		
7 齊藤 誠一	45		
7 三寺 史夫	45		
9 見延 庄士郎	44		

関東地区(定員27名)

1 日比谷 紀之	84	次点 1 河宮 未知生	35(繰上)
2 植松 光夫	80	2 岡 英太郎	33
3 道田 豊	76	3 升本 順夫	32
4 才野 敏郎	72	4 羽角 博康	31
4 川辺 正樹	72	5 千葉 早苗	31
6 今脇 資郎	66(辞退)	6 渡邊 朝生	30
7 安田 一郎	65	7 永田 俊	29
7 古谷 研	65	8 田中 祐志	28
9 蒲生 俊敬	64	9 安藤 健太郎	28
10 木暮 一啓	62	10 島田 浩二	24
11 吉田 次郎	61	11 風呂田 利夫	23
11 石丸 隆	61	12 河野 健	23
13 山形 俊男	59	13 川合 義美	23
14 岩坂 直人	56		
15 小川 浩史	52		
16 深澤 理郎	51		
17 中田 薫	48		
18 神田 穰太	47		
19 池田 元美	43		
19 水野 恵介	43		
19 西田 周平	43		
22 岩尾 尊徳	41		
22 高槻 靖	41		
24 市川 洋	39		
25 蒲地 政文	37		
25 松山 優治	37		
27 木村 伸吾	36		

北陸・東海地区(定員 5 名)

1	久保田 雅久	66
2	石坂 丞二	59
3	轡田 邦夫	58
4	田上 英一郎	39
5	加藤 義久	33

次点 1	植原 量行	23
2	関根 義彦	22
3	千賀 康弘	17
4	中塚 武	17

関西・中国・四国地区(定員 7 名)

1	上 真一	77
2	武岡 英隆	65
3	淡路 敏之	64
4	秋友 和典	56
5	磯辺 篤彦	50
6	金子 新	29
7	藤原 建紀	28

次点 1	山本 民次	26
2	北村 佳照	26
3	井関 和夫	26
4	根田 昌典	24
5	宗林 由樹	21

西南地区(定員 6 名)

1	柳 哲雄	75
2	市川 香	52
3	松野 健	48
4	小池 勲夫	41
5	清野 聡子	37
6	平 啓介	32

次点 1	武田 重信	31
2	尹 宗煥	30
3	中田 英昭	29
4	千手 智晴	24

外国地区(定員 2 名)

1	謝 尚平	49
2	裘 波	46

次点 1	古惠 亮	14
2	川口 創	12
3	CHEN, Chen-Tung Arthur	9
4	田中 恒夫	9

選挙・投票結果報告

公示・投票用紙発送：2010年12月22日

投票締め切り（必着）：2011年1月17日

開票：2011年1月18日

開票作業者：中野俊也、浜崎恒二

1. 幹事選挙結果

日本海洋学会会則の定めるところにより、役員及び評議員による選挙を行い、下記の会員が幹事に選出されました。

投票総数：42票（有効投票数：42票）

開票結果：定員10名（11位以下、同票数の順位は抽選による）

1	小川 浩史	40票	11	岡 英太郎	8票（次点1、繰上）
2	河宮未知生	38票	12	杉崎 宏哉	7票（次点2）
3	島田 浩二	36票	13	神田 穰太	7票（次点3）
3	中野 俊也	36票			（以下省略）
5	浜崎 恒二	35票			
6	川合 義美	33票			
7	山尾 理	32票（辞退）			
8	日比谷紀之	25票			
9	久保田雅久	23票			
10	岩坂 直人	22票			

2. 各賞の可否投票

日本海洋学会会則、日本海洋学会学会賞・岡田賞・宇田賞細則、日本海洋学会日高論文賞・奨励論文賞細則および日本海洋学会環境科学賞細則の定めるところにより、可否投票を行い、全て承認されました。

投票総数：48票（有効投票数：48票）

開票結果：

学会賞	安田 一郎	（可48、否0、白0）
岡田賞	伊藤 幸彦	（可48、否0、白0）
	岡崎 裕典	（可48、否0、白0）
宇田賞	淡路 敏之	（可48、否0、白0）
日高論文賞	岡 英太郎	（可48、否0、白0）
	石田 洋	（可48、否0、白0）
奨励論文賞	和川 拓	（可47、否1、白0）
	齊藤（服部） 愛	（可47、否0、白1）

3. 学会賞・岡田賞・宇田賞受賞候補者選考委員、論文賞受賞候補者選考委員および環境科学賞受賞候補者選考委員会選挙

日本海洋学会会則および選挙細則の定めるところにより、日本海洋学会学会賞・岡田賞・宇田賞受賞候補者選考委員会委員、論文賞受賞候補者選考委員会委員、および環境科学賞受賞候補者選考委員会委員の半数改選を行い、下記の会員が選出されました。

投票総数： 43 票 (有効投票数： 43 票)

開票結果：

(1) 三賞選考委員 (改選数 5)

(留任委員：池田 元美、今脇 資郎、岸 道郎、若土 正暁)

1 日比谷紀之	20 票	6 才野 敏郎	9 票 (次点 1)
2 小池 勲夫	19 票	7 石丸 隆	9 票 (次点 2)
3 山形 俊男	12 票	8 安田 一郎	9 票 (次点 3)
4 田口 哲	10 票	9 淡路 敏之	8 票 (次点 4)
5 西田 周平	10 票	(以下、略)	

※ 6-8 位は同票数のため抽選による。

(2) 論文賞選考委員 (改選数 3)

(留任委員：江淵 直人、久保川 厚、須賀 利雄、安田 一郎)

1 齊藤 宏明	13 票	4 才野 敏郎	7 票 (次点 1)
2 小畑 元	9 票	5 永田 俊	6 票 (次点 2)
3 渡辺 豊	8 票	(以下、略)	

(3) 環境科学賞選考委員 (改選数 3)

(留任委員：清野 聡子、柳 哲雄)

1 武岡 英隆	8 票		
2 梅澤 有	6 票		
3 松野 健	6 票		
4 風呂田利夫	6 票 (次点 1)		

(以下、略)

※ 2-4 位は同票数のため抽選による。

2011 年度 第 1 回評議員会 海洋環境問題委員会資料

2010 年度活動報告

○ シンポジウム開催「海洋酸性化による環境影響：現状と展望」（2010 年 3 月 26 日）

○ 青い海助成事業申請課題の予備審査

○ 諫早湾開門調査 WG の設置

2010 年 4 月、国営諫早湾干拓事業（長崎県）に関する政府、与党の検討委員会の報告を受け、2011 年春季以降に諫早湾潮受け堤防排水門の開門調査が実施される見通しとなった。この件に関して会員からも「有明の異変要因解明、開門による二次的影響、さらに将来の水門の運用方針の決定などに貢献するデータを取得するためには、どのような観測・調査が必要かについて、海洋学会としてきちんと提言する必要がある」といったご指摘・ご提案をいただいた。学会幹事会による協議を受け、当委員会、沿岸海洋研究会および関連の深い学会員により、長期開門調査に関わる現状の把握と提言案の策定を検討する WG を立ち上げた。6 月 25 日に会合を開き、その後、メールによる議論を行った。2011 年 5 月にシンポジウムを開催予定である（本来は春季大会で実施予定）。

・WG メンバー

鈴木昌弘委員長（主査・産総研）、中田薫委員（学会担当幹事）、佐々木克之委員、堤裕昭委員（熊本県立大）、山本民次委員（広島大）、梅澤有委員（長崎大）、石坂丞二会員（名古屋大）、松野健会員（九大）、速水祐一会員（佐賀大）、濱田孝治会員（佐賀大学）、柳哲雄会員（九大）

○ 会計

2010 年度収支報告

(収入)	2009 年度繰越分	¥1,293,956
	2010 年度学会予算	¥300,000
	利子	¥437
	合計	¥1,594,393
(支出)	諫早湾開門調査 WG	¥152,430
	振込手数料	¥1,836
	合計	¥154,266
(次年度繰越)		¥1,440,127

沿岸海洋研究会報告

機関誌「沿岸海洋研究」第48巻第2号を2月に出版しました。

内容は、2010年春のシンポジウム「里海」の学術的意義—の論文8編、原著論文2編、寄稿1編で、総ページ数は97ページです。

2011年春に予定していたシンポジウム「海洋前線と水塊形成—海洋前線の機能と役割に関する新たな理解に向けて—」は、このたびの震災の影響により中止しました。このシンポジウムは、2012年春に開催する方向で検討中です。

沿岸海洋研究会 武岡英隆

2010 年度日本海洋学会西南支部 活動報告

支部長 宮地 邦明
事務局 滝川哲太郎

1. 2010 年度事業報告

- ①ニュースレター39号（11月）の発行
- ②支部ホームページの更新、維持管理
URL http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/~oed_www/swb/swb.html
管理者：市川香会員(九大応力研)
- ③西日本海洋調査技術連絡会で「西日本地区大学・水産大学の平成22年度海洋調査実施状況と平成23年度実施計画」を報告（12月7日）
- ④支部例会の開催：海洋気象学会・水産海洋学会・鹿児島大学大学院理工学研究科と共催で地区合同シンポジウムを開催（12月8日）
「離島周辺の海洋環境と生物資源・海洋エネルギー」
コンビーナ：山城 徹（鹿大院理工）・中村啓彦（鹿大水産）
参加者数：172名（内学生125名）

2. 次期役員幹事一覧（支部長，副支部長，幹事5名）

支部長：宮地邦明（水産大学校）
副支部長：中田英昭（長崎大学大学院生産科学研究科）
事務担当幹事：滝川哲太郎（水産大学校）
水産海洋学会担当幹事：秋山秀樹（西海区水研）
海洋気象学会担当幹事：野崎 太（長崎海洋气象台）
平成23年度例会担当幹事：万田敦昌（長崎大学大学院生産科学研究科）
平成24年度例会担当幹事：滝川哲太郎（水産大学校）
（平成24年度，沖縄開催の場合，琉球大学等へ依頼）

日本海洋学会教育問題研究会
2010 年度活動報告および 2011 年度活動計画(案)

2011 年 3 月 31 日 市川洋

2010 年度活動報告

1. 会則（第 1 条目的）改訂案の作成

現 行：

日本海洋学会教育問題研究会（以下、本研究会という）を日本海洋学会（以下、本学会という）に置く。本研究会は、初等中等教育および高等教育における海洋の教育、ならびに一般国民を対象とした海洋の教育、海洋に関する知識の普及等を図るため、そのための手段を検討し実施することを目的とする。

改訂案：

日本海洋学会教育問題研究会（Ocean Literacy and Education Panel；以下、本研究会という）を日本海洋学会（以下、本学会という）に置く。本研究会は、初等中等教育および高等教育における海洋の教育の充実、ならびに一般国民を対象とした海洋の教育の推進、海洋に関する知識の普及等を図るための手段を検討し実施することを目的とする。

2. 第 5 回「海のサイエンスカフェ」

日 時： 3 月 28 日（日）11 時から 13 時まで

場 所： ルノアール品川港南口店 港区港南 2-3-29 シンゲンビル 1F

話題提供：中村 知裕さん（北海道大学低温科学研究所）

演 題： 地球温暖化と海—水中の巨大な波，内部波のひみつ—

進 行： 乙部弘隆、主 催： 教育問題研究会

担 当： 須賀・市川、参加者： 高校生（1 名）、社会人（5 名）、海洋学会（1 名）

教育問題研究会参加者：乙部、岸、松野、菊池、轡田、藤井、須賀、市川

3. 大学施設を利用した海洋教育の実践

日 時：平成 22 年 7 月 5 日（月）13：00～15：00、7 月 6 日（火）13：00～15：00

場 所：横浜国立大学教育人間科学部附属理科教育実習施設・岩漁港（真鶴）

主 催：真鶴町、協 力：横浜国立大学、教育問題研究会

指導者：渡部 孟（真鶴町立海の学校校長）

支援者：菊池研究室大学院学生 3 名、真鶴町立「海の学校」職員 2 名

受講者：真鶴町立真鶴小学校 6 年（5 日：1 組、6 日：2 組）、教員 2 名

教育問題研究会参加者：乙部（両日）、菊池（5 日のみ）、市川（5 日のみ）

4. 第 5 回「研究船で海を学ぼう」

期 間：8 月 2 日から 8 月 8 日

募集人員：高校生 60 名、学校教諭等 20 名

共 催：日本海洋学会、東海大学、財団法人日本科学協会
場 所：東京都江東区及び静岡県静岡市（東海大学清水校舎、三保研修館、望星丸）
参加者：一般 14 名、高校生 66 名（応募者：一般 19 名、高校生 149 名）
教育問題研究会参加者：岸、轡田、菊池、須賀
注）第 1 期終了。2012 年度以降の実施は未定

5. 第 6 回「海のサイエンスカフェ」

日 時：9 月 9 日（木）18 時から 20 時まで
場 所：道の駅「流氷街道網走」2 階、フードコート「キネマ館」
話 題：「海の巨大な渦 ―海の中にも高気圧と低気圧がある―」
話題提供者： 上野洋路（北海道大学大学院水産科学研究院）
進 行：須賀利雄
主 催：教育問題研究会、協 力：海洋学会 2010 年度秋季大会実行委員会
担 当： 須賀・市川
参加者： 大学生・大学院学生・社会人（9 名）、研究会会員（6 名）
教育問題研究会参加者：乙部、岸、轡田、中野、須賀、市川

6. 出前授業

日 時：9 月 9 日（木）3 校時（10:35－11:20）
場 所：網走東小学校（網走市字藻琴）
主 催：海洋学会 2010 年度秋季大会実行委員会
協 力：教育問題研究会 担当者：乙部弘隆 補助者：市川

7. シンポジウム「海洋科学の大学院教育は企業の即戦力たりえるか？」

日時：10 月 15 日 13 時 30 分－16 時 30 分
場所：神戸国際会議場（TechnoOcean2010 展示場から徒歩 5 分）505 会議室
主催：日本海洋学会教育問題研究会 コンビナー：豊川・藤井
教育問題研究会参加者：豊川、藤井、松野、道田、轡田、福島、市川
「海の研究」に開催報告を寄稿（豊川）

8. 教科書の作成（岸）

印刷中（全 13 章）。分担執筆（著者総数：14 名）。

9. ウェブサイト運用（藤井）

新規掲載

第 5 回海のサイエンスカフェの開催報告 第 6 回海のサイエンスカフェの開催報告
第 7 回海のサイエンスカフェの実施要領 研究会会則
これまでの研究会活動状況を紹介するパンフレット（PDF）

新規サイト開設

シンポジウム「海洋科学の大学院教育は企業の即戦力たりえるか？」

Oceanography for Tomorrow Project in Japan

追加リンク：

NPO 法人 海の自然史研究所 <http://www.marinelearning.org/>

10. その他

- 地学オリンピック国内実行委員会への対応
 - 1) 幹事会より第6回国際地学オリンピック日本大会組織委員会委員適任者推薦の依頼を受け、市川洋会員を推薦。
 - 2) 幹事会より地学オリンピック作題委員適任者推薦の依頼を受け、研究会内にWG（松野、道田、市川）を設置して、海洋学会員2名を推薦。
- NPO 法人 海の自然史研究所との連携（今宮、平井）

NPO 法人 海の自然史研究所：米国カリフォルニア大学バークレー校のローレンス科学教育研究所（Lawrence Hall of Science）において1991年から開発・運営されている「海を学ぶ体験型科学教育カリキュラム」であるMARE（Marine Activities, Resources and Education）の我が国における普及活動等を行っている団体。
- 「メディアとの対応」促進活動
 - 1) 立ち上げるウェブサイト内容の検討（担当：伊藤、藤井）。
 - 2) 早稲田大学サイエンス・メディア・センターとの連携（難波）

第7回「海のサイエンスカフェ」をUstream中継することについて協力を得ることになったが、会場の都合により中止。
- （仮称）海洋総合検定準備委員会（市川）

海洋総合検定事業を検討している日本海洋工学会（仮称）海洋総合検定準備委員会事務局の要請を受けて、7月29日に開催された同準備委員会にオブザーバーとして参加した。
- 日本第四紀学会（饒田、岸、市川）

学校教育の地学の現状、今後の暗い見通しを打開すべく、研究系学会と教育系学会と現場教員の連携を深めるための活動を開始した日本第四紀学会の要請に応じて、集会参加、寄稿した。

 - 1) シンポジウム「学校教育で地学は生き残れるか？：学会と教育現場との連携に向けて」

日時：6月19日（土） 13～18時 主催：日本第四紀学会、
共催：日本地学教育学会，日本理科教育学会，日本科学教育学会
後援：日本地質学会，日本地球惑星科学連合，早稲田大学教育・総合科学学術院
出席者：饒田 寄稿：日本第四紀学会学会誌「第四紀研究」別冊号（饒田、市川洋）
 - 2) 日本第四紀学会公開シンポジウム

「自然史の教育と研究をすすめるために―さまざまな分野からの取り組み」
日時：8月22日（日） 10時～18時
ポスターサロンでの発表（市川・岸）と参加体験報告の寄稿（市川）
- TechnoOcean2010
 - 1) 特別セッション「海洋教育および持続可能な発展に関する教育（ESD）」

10月16日 饒田 他
「体験型学習をベースとした高校生向け海洋教育プログラム―研究船で海を学ぼう―」
 - 2) TechnoOcean2010 並行開催行事

シンポジウム「海洋科学の大学院教育は企業の即戦力たりえるか？」を主催（別掲）
- 海洋産業研究会

内閣官房総合海洋政策本部の委託事業「海洋教育の現状に関する調査」における基本方

針の策定（3月4日）及び報告作成作業（3月29日）に助言・協力（市川）

●前年度からの継続事項

- 1) 日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会から働きかけのあった連携について（担当：福島）
進展なし（参考：先方の委員長が庄司委員長（東京海洋大学）に交代）
- 2) 船の科学館の展示内容改装への助言・協力（窓口：菊池） 進展なし

2011年度活動計画

1. 第7回「海のサイエンスカフェ」

日 時： 3月27日（日）11時から13時まで

場 所： ルノアール品川港南口店 港区港南 2-3-29 シンゲンビル 1F

話 題： 「東北関東大震災にかかわる海洋の科学を考える」

進 行： 市川洋、主 催： 日本海洋学会教育問題研究会

参加者： 一般17名、学会員10名（内、研究会会員8名）

2. 大学1年生向け教科書「海はめぐる—海其自然と人との関わり—」（岸）

地人書館より6月頃に刊行予定（大震災のため、3月末刊行予定を延期）

3. 第8回「海のサイエンスカフェ」

日 時： 未定（秋季大会期間中または前後）

場 所： 未定（福岡または春日市内）

主 催： 日本海洋学会教育問題研究会、

担 当： 松野、他

4. 大学施設を利用した海洋教育の実践

日 時： 未定 内 容： 未定 担当： 菊池

場 所： 横浜国立大学大学院環境情報研究院附属理科教育実習施設・岩漁港（真鶴）

主 催： 真鶴町、協 力： 横浜国立大学、日本海洋学会教育問題研究会

5. 2011年度春季大会企画1（大震災のため中止、今後の開催は未定）

シンポジウム「ブレイクスルー研究とその研究基盤整備：大型研究と個別海洋研究」

主催：ブレイクスルー研究会、日本海洋学会教育問題研究会

コンビーナー：渡邊豊・池田元美・伊藤進一

6. 2011年度春季大会企画2（大震災のため中止、今後の開催は未定）

ナイトセッション「日本の海洋学における人材育成とポストドク問題について」

主催：日本海洋学会教育問題研究会、ブレイクスルー研究会

コンビーナー：伊藤進一・豊川雅哉・藤井直紀・渡邊 豊

7. その他

- 「メディアとの対応」促進活動

ウェブ立ち上げ（担当：伊藤、藤井）

会員数

2010年3月31日現在 登録会員数 39名（前年比：+8名）